

「JTEKT+多摩美術大学=未来のモビリティの可能性」



それでも人は「移動」する。 MOBIVERSE (Mobile Universe)

JTEKT+TAMA ART University

ジェイテクトという会社を存じだるうか？自動車の電動化、ハワーステアリングの世界No.1サプライヤーだ。自動車技術は大きな変革期を迎えていると云われるが、もっと遠い未来にジェイテクトは、その「ステアリング曲がる」技術をどう発展させ、モビリティ社会に貢献しているだろうか？それを外部の有識者と自由に考えてみよう。そこから今回の企画が始まった。

多摩美術大学のデザインチームが50年後のモビリティ社会におけるジェイテクトの「曲がる技術」の意味を一年に渡って思索した。アート、メディア、工学…異質な経験とスキルを兼ね備えたメンバーが、本プロジェクトのために集結。自動運転や相互接続があたりまえのものとなった未来環境を踏まえつつ、美術大学ならではの表現方法で、ジェイテクトの技術の未知なる可能性と、可動する宇宙「MOBIVERSE」の姿を予言する。

自由自在なユニット
コンパクトなユニットは、個々がステアリング機構と動力機構を持つ。オブジェクトに接続された際、各ユニットは相互の位置関係把握し、ステアリング担当、駆動担当など、各自が自律的に役割を変化させる。バリエーションがヒットの数だけある、自由自在なユニット。異なるものが接続する度にモビリティはその役割を変え、あなたのためのモビリティが姿を現す。

TEAM

多摩美術大学・デザインチーム

多摩美術大学メディア芸術コースの教員2名と卒業生3名からなる、本プロジェクトのためのスペシャルユニット。メンバーのうち4人は3年次に編入あるいは転学科しており、もう1人も工学部出身という、ハイブリッドな経歴を有する特殊部隊。異質な経験と思考、スキルを交錯させることで、モビリティの未だ見ぬ可能性を思索する。



AKIHIRO KUBOTA
久保田晃弘

1960年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授/メディアセンター所長。衛星芸術プロジェクトARTSATをはじめ、自然知能と美学の数学的構造、ライブ・コーディングと自作楽器によるライブ・パフォーマンスなど、さまざまな領域を横断・結合するハイブリッドな創作の世界を開拓中。
@hemokosa



WATARU KAMI
上 航

1990年生まれ。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科メディア芸術コース卒業。コンセプトアーティスト/デザイナー。直近では「Code of the Revolutionary: PV00」(XSHELL Inc.)、「BLAME!」(Polygon Pictures Inc)コンセプトアート、「BrushKnob」(オリジナルデバイス)、など。
@wtrkm



MUKU KOBAYASHI
小林 椋

1992年生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修士課程 情報デザイン領域修士、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程 彫刻専攻在籍。近年の主な展覧会に「エマージェンシーズ! 032《盛るとのるソー》」(ICC, 2017年9月12日から開催)「無・ねじらない」(コボヤ, 2017)「ブンするボーコ」(オリエンタルデザインギャラリー、2016)など。
@aiuebo



SHEEP
ひつじ

1989年生まれ。多摩美術大学大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修士、慶應義塾大学 SFC 寛康明研究室 特任研究員。コンピュータを用いた表現に関わる広告や商業施設の開発業務に携わる傍ら「システムと表層の反転」を主題とした表現活動を行う。
@loveandsheep145



AKIHIRO TANIGUCHI
谷口暁彦

1983年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース講師。自作のデバイスやソフトウェアを用い、メディア・アート、ネット・アート、ライブ・パフォーマンス、映像、彫刻作品などを発表する。個展に「スキケア」(SOBO, 東京, 2015)「参み出る板」(GALLERY MIDORI.SO, 東京, 2015)「超-いま-ここ」(CALM & PUNK GALLERY, 東京, 2017)など。2017年9月23日から開催の「Asian Art Award 2017」で新作を発表。@hikohiko

未来のモビリティは、常に学習しつづける、知能を持った流体だ。



アート、メディア、そして工学…異質な経験とスキルを兼ね備えたメンバーたちが、本プロジェクトのために集結。毎回およそ3時間に渡る熱い議論を繰り返し、回を重ねるごとに深まる考察。新しい視点を持ったメンバーだからこそ生まれる、溢れ出る新しいアイデアたち。

変化し、生成するモビリティは、未来の風景を創造しつづける。

“スペキュラティブ・デザイン”という試みが、今回のプロジェクトを通して多摩美術大学から社会に発信され、顕在化される。車という見慣れたものを、未来の見知らぬモノへと変化させ、イメージを膨らませていく。未来をスペキュラティブしていくと世界が変わる。
produced by B2ENGINE Inc.

80インチモニターで
ドライブシミュレーションを体験出来る。2017/10/18~11/24
JTEKT ROOM Ginza

JTEKT ROOM Ginza
ADDRESS 東京都中央区銀座7丁目11番15号 東京ジェイテクトビル1F
http://jtektrroom.com
PHONE 03-3571-6212
開館時間 10:00~17:30
休館日 原則土曜・日曜
Map showing location near Ginza Six and Ginza 6 intersection.



JTEKT 出展中!
TOKYO MOTOR SHOW2017
東京ビッグサイト 2017/10/27-11/5
JTEKT ブース: E 3104

車の移動経路を自律的に生成するシミュレーション



ドライブシミュレーション
これは、未来のドライビングを体験できるシミュレーターだ。1つのタイヤしか持たない、部分としてのユニットがオブジェクト群と接続し、それらが自在に組み合わさることで、動的でフレキシブルなモビリティが生まれる。ユニットはオブジェクトの大きさや形状に応じて自由な位置に接続でき、各自が自律的に役割を変化させる。



http://jtekt-sp.com/mobiverse/
Web でドライブシミュレーション体験と 3D データ DL ができる

MOBIVERSE (モビバース) とは? Mobile + Universe = MOBIVERSE への「Universe」とは、車やモビリティを含めた、その周辺の街、「コミュニティやヒトなど、全ての環境」と定義する。未来の世界でも、人々は移動することを楽しむだろう。環境の中にモノがあるのではなく、モノと環境が相互に影響しながらランドスケープをも変化させる。未来の私たちはきっと、そんなMOBIVERSEの中で自由に移動しているだろう。

未来のモビリティをダウンロードして楽しむ
「未来はこうあるべきだ」と提唱するのではなく、「未来ってどうもあり得るんじゃない?」という、今の世界に違った視点を提示するプロダクトたち。特設Webサイトでは、一足先に未来のモビリティを体験することができる。ドライブシミュレーション体験では、上に乗るものに応じて可変するユニットを、未来のランドスケープの中で自由に運転ができる。

また、この未来のモビリティのミニチュアの3Dプリンタ用のデータをダウンロードすることができる。プリントアウトしたオブジェクトをシミュレーション映像同様に自由に組み合わせることで、可変流動的な未来のモビリティを体験することができる。ぜひ未来に思いを馳せながら楽しんでほしい。